

令和 7 年 9 月発行

〈9 月 3 日(水) 幼保小合同研修会〉
「架け橋期のカリキュラム」は作成が目的ではなく
対話の「視点・ツール」

子どもが「小学校に慣れること」を目的としたこれまでの交流活動から、これからの「学びをつなぐこと」を目的とした交流活動にするためには、相互理解が不可欠です。相互理解を深めるためには、目に見える「できる・できない」を中心に語り合うのではなく、遊びや生活を積み重ねることにより育まれる「10の姿」を正しく理解し、子どもの内面の育ちも読み取って、園でのどのような環境構成や関わりをしているか(してきたか)も含めて伝えられることが必要であり、それも大切な保育者の専門性のひとつだと感じました。

※「秋の自然と関わる活動」を基に「10の姿」を読み取る演習後、それぞれに必要な環境構成や指導上の配慮事項について話し合いました。

【小学校】

- *「園ではどうしてた?」と園での遊びを想起させ、経験を生かしながら遊べるような時間と空間を確保する。
- *おもちゃ作りに使えるもの(自然物・段ボール紙・紙コップ等)を家庭にもお願いして集めたり、参考になる本や資料、作品例を準備したりして意欲を高める。
- *「もっと〇〇したい」という目的が膨らむように、子どもたちの意見を引き出しながら話し合う機会を設ける。

【幼稚園・保育園・こども園】

- *散歩に出かけ、直接触れたり集めたりなど保育者も一緒に楽しみながら五感を十分に使って遊び、気付いたこと感じたことを言葉で伝え合う場面を大切に橋渡しする。
- *素材や用具に十分に触れ、それらを自分で選んで制作したり遊んだりできるコーナーを設ける。
- *興味・関心が膨らむような絵本や図鑑を用意し、自由に手に取って見られる場に置いておく。
- *制作に必要な道具に十分に触れ、小学校で安心して取り組めるように使い方を体験しておく。

※研修会全体を通しての感想の一部です。

【小学校】

- *園の先生方と深く話をするよい機会となった。こんな機会がないと、日々に流されてしまう弱さがあったのでありがたかった。「10の姿」をじっくり読み、内容を共有できたことも深まりのひとつ。しかしまだ今回の視点で捉えることが足りないと感じた。もう少し機会をいただけたらありがたい。
- *「小学生」にひとつ上がった子どもたちに、先ばかりを見て指導していた。その前に培った力や資質について考える機会となってよかった。

【幼稚園・保育園・こども園】

- *これまでの研修で5歳児の姿から「10の姿」を捉えていたが、今回、演習②で1年生にどのような姿が育とうとしているのか捉えたことがとても勉強になった。5歳児の学びだけではなく1年生の学びも大事にしながら今後の幼保小連携を進めたい。
- *幼保小の接続は、何よりも職員間の相互理解が大切だと改めて感じた。子どもたちそれぞれが楽しみに学校生活を目指せるよう、校区の施設で連携を図りながら、交流の仕方や援助等を見直していきたい。

「安心」と「楽しさ」は「学び」の原動力！

～試行錯誤が保障される環境と関わりを（人・もの・ことをつなごう）～

放虎原こども園では、日常的に学年が交じり合って好きな遊びを楽しむ環境があり、子どもたちが互いに興味をもち、生き生きと遊び込む「遊び」が文化的に伝承されています。この「石鹸クリーム作り」もそのひとつ。色水遊びやシャボン玉遊びを数日間十分に楽しんだ後、さりげなく置かれたおろし器や泡立て器を見て、今年こそはもちもちの泡を作りたいと挑戦する５歳児の姿がありました。

健康な心と体

自立心

固形石鹸をおろし器で削ります。途中で手が疲れます。なかなか根気が必要です。

ある程度石鹸を削った後、水を加え泡立て器で混ぜますがさらさらとしていて、目標とするもちもちの泡作りはなかなかうまくいきません…。

協同性

道徳性・規範意識の芽生え

思考力の芽生え

言葉による伝え合い

友達同士で、用具の貸し借りも必要です。年下の子どもが手間取っていると、ボウルを支えて手伝う姿も見られます。

石鹸や水の量、用具の選び方、使い方、力加減…。毎日毎日試行錯誤を繰り返すうち、だんだんと要領を得て手応えを感じ始めます。

「水を少しにすると、混ぜる時に（感触が）重くなって、もちもちになった!」「水が多いと軽いよね」と、気づきを友達同士で伝え合います。



豊かな感性と表現

イメージ通りのもちもちの泡ができると、今度は「紫色にしたい!」と新たな挑戦が始まりました。

数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

社会生活との関わり

これまでの色水遊びの経験から発色のよいクレップ紙を混ぜてみますが、色がでません。赤色と青色のバランスを考えて枚数を増やしたり減らしたり…。それでもうまくいきません。遊びの振り返りの時間、お友達の「絵の具を使ってみようよ」のアイデアを次の日取り入れたところ大成功!

いろんな色の泡が次々と生まれ、アイスクリーム屋さんへと発展、年下の子どもたちを喜ばせようと看板づくりやメニューづくりも始まりました。



一見、同じ遊びが毎日繰り返されているように見えますが、一人一人の胸に膨らんでいる思いや楽しみ方は様々。「やってみたい!」から始まる小さな成功体験が積み重なり、気づきや喜びを共に味わい合う子ども同士の関係性が安心感となって、次への挑戦意欲につながっています。

先生たちは、遊んだ後に遊びを振り返る時間を設け、楽しかったことや嬉しかったこと困ったことなど、子どもたちの思いや考えを伝え合う時間も大切にし、それらを丁寧に汲み取りながら、遊びに必要な用具や遊具、場づくりなど、日々子どもたちと共に環境を再構成し、子どもの試行錯誤を支えています。

子どもにとって自由感溢れ、遊び込める環境の中には、先生たちの願いや思いがいっぱい詰まっています。

◆問合せ先◆

大村市幼児教育・保育支援センター いっぱ

〒856 - 0832 大村市本町 413 番地 2 (大村市こどもセンター2 階)

T E L : 0957-46-5881

F A X : 0957-46-5881

Email : youkyou@city.omura.nagasaki.jp